

子供たちを内部被曝から守るため、 秋田市の学校給食のより確実な安全性を求める署名

趣 旨

私たちは、昨年3月の原発事故による放射能汚染食品から、子供たちの内部被曝を避けるため、学校給食の放射能検査と、安全対策の実施を求めます。

放射能に汚染された食品の流通により、抵抗力の弱い乳幼児や児童への健康被害が懸念されます。それに対する早急な対策を要望します。

現在、県が実施している給食の検査方法では、安全が確保できるとは言いがたく、汚染が懸念される地域の食材を対象に毎日測定してください。また、ドイツ放射能防護協会「日本における放射能リスク最小化のための提言」では、乳幼児においては、食品1キログラムあたり4ベクレル以下が望ましいとされています。

秋田県は、幸いにして、福島第一原発事故による放射性物質の降下量が極めて低かったとされています(チェルノブイリ原発事故時よりも低いとされています)。しかし、国内の食料事情を考えますと、降下量がチェルノブイリ事故以上のところにあっても現在も農作物、海産物の生産、流通が行われている現状です。

I C R Pによる、放射性セシウムの長期摂取により体内残存量の経時移行を参考にしますと、たとえ食品1キログラムあたり1ベクレルであっても、1000日を越えた場合には、体内残存量200ベクレル程度が留まるという結果が出ています。

以上の点から、また食からの内部被曝に対する考え方は人によって様々な事から、各家庭や教職員本人の判断による弁当持参の選択に対して、理解と支援を求めます。

要請事項

- 1、 内部被曝ゼロを目指して、安全が確認されない食材は使用しないでください。
- 2、 地産地消を取り入れ、汚染のない地域の食材を使用してください。
- 3、 弁当持参など、自由選択への理解と支援をしてください。